

小沢映子後援会だより  
14

# 四っ葉のクローバー

一般  
質問

## 魅力ある市立高校をめざして

(市立吉原商業高校改革について)

平成十九年三月『魅力ある市立高校を目指して』

富士市立コミュニティ・ハイスクール構想の報告書が「富士市立高等学校あり方懇話会」より教育委員会に出されました。

いよいよ、吉原商業高校の本格的な改革が始まります。

平成元年当時の中学卒業生は205万人、平成七年の出世者数は120万人を割ります。高等学校生徒が6割以下に落ち込む事が現実となっています。全国的に生徒減少に対応した公立学校の再編整

備等本格的な改革が始まりました。

伊東城ヶ崎高校は伊東高校の分校に、農業経営高校と浜松城南高校が統合して浜松大平台高校に、下田北校と下田南校が統合して下田高校に、静岡工業高校と清水工業高校が統合して科学技術高校に、長泉高校は移転改編して三島長陵高校となりました。これから森高校と周知高校が統合し、大仁高校と修善寺工業高校も再編整備される予定です。

いち早く危機意識を持った私立高校もすでに改革を行っています。

こういった流れの中で、市立高等学校も改革は避けられないものになっています。市立清水商業、静岡市立商業高校は統合再編計画がなされています。静岡県内に市立高校は、静岡市立高校、市立沼津高校、吉原商業高校、浜松市立高校、の4校のみになってしまいかもかもしれません。

改革の提言を受けて様々な委員会が設置されました。学校名、校歌、制服、校章等々、具体的に決めていくこととなります。

コミュニティ・ハイ!

スクール「地域運営学校」構想をどのように進めていくつもりなのか。なんといっても改革の成否は校長とそれを支えていく教員の熱い思いによります。最も重要な教員の意識改革は、できているのか。また改革の意思を伝えるに当たり、市として商業高校との連携はできているのか。二十三年四月新しい学校がスタートしてからの市の評価体制は考えているのか。等々質問しました。

県立高校は県の予算ですが、市立高校は、全部市の予算で運営します。学校の校舎もグラウンドもパソコンなどの設備もかなり富士市は予算を投入しています。こういった施設整備費を除いても運営のため年間6〜7億の市税が投入されます。市民が関心を持って、市民のための開かれた学校になるよう今後も注目していきたいと思

# 一般質問 すべての子どもに 安心してできる放課後を



「わが子にもいきいきとした放課後生活を送らせたい」という障がい児を持つ親の切実な願い。「障がい児たちの放課後や夏休みをなんとか考えたい」という特別支援学校や学級の先生たちの思い。「障がい児の入所希望があるがどうしたらいいのか」「障がい児を受け入れたがどうしたらいいか心配」という児童クラブの指導員。障がい児の場合多くは、放課後の生活では、一人でテレビやビデオを見ているか、母親とベッタリ過ごす事が少なく

ありません。長期休業日を含む年間休業日の総計は一年の45%にもなります。そうした長い時間を母親とだけ過ごす状況を考えてみてください。放課後児童クラブがあることで、心身ともに開放され、今までできなかった仕事をしたり、余暇を過ごすことができ、他の兄弟に目配りができるようになりました。障がい児放課後のケアが、家族そのものを支えているのです。このように今日、障がい児の放課後保障に関わる願いが急速に広がっています。障がい児も含めた必要とする共働き・一人親家庭の子どもたちのすべてが、放課後児童クラブに入る事ができ、安心していきいきと放課後や夏休み・土曜日等の生活を送れるように国や自治体が公的な責任として、施設の整備や指導員の加配など、条件整備を図っていく事が切実に求められています。

## ●デンマーク研修アルバム●



次は、札幌市の教員が書いたものの一部です。  
『他の子と関わっての遊びや、自分を表現することが苦手な子どもたちの社会性を高めるためには、こどもの集団の力を抜きにしては難しいと思います。子ども達が集団遊びをする機会や場は学校でも確実に減ってきています。しかし、児童クラブの歴史は一貫して豊かな遊びの創造であったと思います。遊びを組織することによって、子ども達に豊かな人間関係や、たしかに生活力を育ててきました。限られたスペースと予算の中であつても、指導員と子どもたちは様ざまなイベントや遊びを作ってきました。そこには、泣いたり、けんかしたり、励ましたり、笑ったりという子ども達の感情があふれていました。障がいを持つ子ども達であるからこそ、児童クラブの場は、教室以上に「変えがたい経験のできる場でした。」と述べています。  
障がい児の受け入れの理念と方法、障がいを持つ子が安心して過ごせる放課後支援の施策として市が認識している課題等を質問しました。

# デンマークへ行ってきまうた

四月二十六日から五月三日まで、富士市の高齢者福祉、障害者福祉、教育に携わる15名で、

デンマークのヘルシンガー市にあるインターナショナル・ホイスコール(成人学校)のショートコース(福祉関係プログラム)に入り、朝から晩まで講義と視察。それと世界各国から来ている学生との交流をしてきました。



障がい者関係では、障がい児の幼稚園、グループホーム、障がい者就労センター。高齢者関係では、高齢者複合センター、特別養護老人ホーム、補助器具センター、中高年のグループホーム等を見学しました。



ホイスコール(成人学校)の教師による講義を受けました。

「デンマーク社会について」「家族生活と社会支援」「デンマークの教育・社会教育」



「障がい児の支援について」歴史講義等々どの講義も大変興味深いものでした。



高齢者の複合センターでは使われなくなったホテルを利用して、高齢者が手芸・陶芸・絵画・パソコン・木

工・等々自分の興味ある活動ができます。全部自分たちの手で運営から発信から何でもします。一応、市の担当はいますがめったに来ることはないそうです。どの人もいきいきと活動していました。

デンマークでは在宅支援サービスが整っているのが、最後まで住み慣れた家で過ごすことができるのですが、認知症でいよいよ暮らせなくなると、日本のように特別養護老人ホームがあります。

127人の入所者に230名の職員が働いていました。重い認知症の方でも、7、8名のユニットで暮らします。大きなリビングの周りにそれぞれの個人の広い部屋があります。シャワールームもトイレも、テラスも



そして思い出の品や家具がいっぱいありました。トイレやシャワーや流し等の水周りが各部屋についていて大丈夫ですか、ぐちゃぐちゃになりませんか?と尋ねると「えっ、だって人の生活にはトイレも流しもシャワーもあるでしょう。」との答えです。質問した方ははっとしたそうです。

高齢者福祉三原則「自己決定権」「生活の継続性」「残存能力の活用」デンマークではこれを基に、できるだけ最後まででの生活の支援だったり、各地域にある補助器具センターだったり工夫してきました。家族に重くのしかかる介護による負担や悲劇はありません。ですから家族の愛情が枯れることがないのです。医療も介護も整っていて安心なので、国民年金だけで十分な生活ができます。



さらに失業しても安心のセーフティネットがあります。路頭に迷うことはありません。

障害を持っていても、十分な年金と住居、生きがいのある生活が保障されています。



デンマークの教育は、その子の個性を伸ばし職業に結び付けていく教育です。塾もなければ、受験競争もありません。親の金銭的負担は日本と比べ物にならないくらいありません。18歳過ぎると国の責任になるので大学は無料だし、月に10万円ほどの年金まで支給されるのです。なんととってもデンマークの子どもは幸せです。



世界でもっとソーシャルスキル(社会で生きていく力)が高いといわれます。

短い期間ではありましたが、ハードで濃い研修日程でした。デンマークをはじめとする北欧のスカンジナビアモデルといわれる国は、ご承知のとおり税率が高く、高負担の国ですが、生活レベルは高く豊かなです。ほとんどの家庭がセカンドハウスを持ち、車を持ち、海外旅行にも出かけていきます。

貯金は必要ないのです。生活していて余ったら貯金します。スカンジナビアモデルの社会福祉国家が、アメリカを中心としたマネー資本主義が破綻した今、注目されています。これからの社会のあり方の参考になるものと確信しています。

**お知らせです**

★8月10日(月) 午後7時～  
でら～とにて (富士市伝法86-3 ☎0545-23-1551)

「デンマーク視察研修報告会」併せて  
「細野豪志演説会」を開きます。



★8月21日(金)  
社会福祉法人札幌この実会  
常任理事・加藤孝さんをお迎えして  
講演会を催します。  
※時間・会場等詳細は小沢映子までお気軽に。  
どちらも参加無料です。  
お誘い併せの上お出かけ下さい。

ミニ集会を持ちたいと思います。4.5人でもいいので呼んで下さいね。日頃思っている事をどんな事でも結構です。気軽にお話しして下さいね。



ご意見・ご要望はこちらまで

**小沢映子後援会事務所**

〒417-0001 富士市今泉5-6-45  
TEL・FAX 0545-52-5299



ブログ更新中です。遊びに来て下さいね。

メール eiko@tx.thn.ne.jp URL <http://web.thn.jp/ozawa/>